

科目名	ふじのくに学(お茶)(Fujinokuni Studies(O-CHA))				
開講時期	令和2年度 前期	開講時限	集中講義	単位数	2
科目責任者	* 中村順行				
担当教員	* ステファン・ダントン 他				
授業目標	集中講義と野外実習により、多様な視点からお茶を総合的に学習し、お茶を通じて地域に愛着や誇りを持ち、地域の魅力を発信できる人材を育成する。				
授業概要	農学、作物学、生産から加工・流通までの多様な視点からお茶を総合的に学習する。				
授業方法	集中講義・フィールドワーク				
授業展開	<p>9月7、8、9、10日の4日間</p> <p>第1日 ふじのくに茶の都ミュージアム</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義「茶学概論」</li> <li>2 ふじのくに茶の都ミュージアム館内見学・抹茶体験</li> <li>3 グループワーク「これからのお茶の可能性を考える」</li> </ol> <p>第2日 川根本町</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4 実習:茶摘み、茶刈体験、茶工場見学</li> <li>5 講義「川根の茶業と生活、文化について」</li> <li>6 お茶の淹れ方講座／闘茶体験</li> </ol> <p>第3日 静岡市中心街</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7 講義「平地のお茶の生産・加工」</li> <li>8 講義「静岡茶の流通～過去から現在、そして未来へ～」</li> <li>9 講義「お茶の価値を高めるマーケティング」</li> <li>10 静岡市街のお茶関連商品提供店舗の散策</li> </ol> <p>第4日 静岡県立大学</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>11 講義「茶の機能と多用途利用」</li> <li>12 講義「外国人から見た日本茶」</li> <li>13.14 グループワーク「静岡の茶業が活性化するための展開の仕方」</li> <li>15 全体総括</li> </ol>				
履修条件	全学共通科目の「茶学入門」と一部重複するため、「茶学入門」履修者の単位認定はしない。受講は可能。全日程出席を必要とする。				
評価方法	レポート等に基づき判断する。				
テキスト	必要に応じて、プリントを配布する。	参考書			
備考	<p>ふじのくに地域・大学コンソーシアム単位互換協定校及び、南大阪地域大学コンソーシアム広域単位互換協定校の学生を対象とする。定員 50 名程度。</p> <p>「茶学入門」未履修者を優先する。</p> <p>学生負担金として、借上バス代、宿泊費等を徴収する。</p> <p>また、集合場所までの交通費、昼食代については、参加者負担とする。</p> <p>講師の中村順行特任教授は静岡県職員として、茶業の振興計画等に携わって経験を踏まえて講義を行い、ステファン・ダントン氏は、茶商としてのマーケティングの実践的な考え方について講義を行う。</p>				
社会人聴講生	原則聴講不可		科目等履修生 履修不可		